

IPM実践指標(レタス)

管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄		
				昨年の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況
共通項目	圃場その周辺の管理	圃場周辺の雑草を除去し、病害虫雑草の圃場内への侵入を防止する。	1点			
	作付け前の圃場内管理	作付け前の圃場を数回、耕起し雑草を生やさない。	1点			
	土づくり	完熟堆肥の施用や、緑肥作物のすきこみによる土づくりを行い、病気に掛かりにくい強健な作物栽培に心がける。	1点			
	排水対策	排水が悪い圃場は暗渠排水の設置、通路や排水口を整備するなどの改善を行う。	1点			
	栽植密度	適正な栽植密度を保つ。	1点			
	品種選択	作型に応じた品種選択を行う。	1点			
	発生予察情報等の活用	病害虫防除所の発生予察情報等を参考にするなど、病害虫の発生動向を注視し、防除計画を作成する。	1点			
		フェロモントラップを設置し、害虫の発生動向を把握することで防除の要否、施用時期の判断をする。	1点			
		近隣の作物や畦畔の雑草での病害虫の発生状況を確認し、圃場での発生を予測するなどの判断材料とする。	1点			
	作物の観察	病害虫の発生状況を観察し、発生初期に薬剤散布を行うなど効果的な防除を行う。また発生が極めて少ない場合は捕殺や抜き取りを行う。	1点			
	地域での防除	交信攪乱法などに地域で取り組み、地域全体の害虫の密度を下げる。	1点			
	土着天敵の確認	化学農薬を使用する場合は、その使用前で最低1回はクモ、寄生蜂等の当該地域に通常生息している天敵類の発生状況を確認する。	2点			
	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上での使用量・散布方法を決定する。	1点			
		定植時に粒剤を処理する等、栽培初期の薬剤防除を徹底する。	1点			
		農薬の使用にあたってはローテーションを組み、抵抗性がつかないよう、同系統の農薬使用はさける。	1点			
		生物農薬(BT剤等)、土着天敵への影響の少ない選択性殺虫剤(脱皮阻害剤、ピリダリル剤等)を利用する。	1点			
		農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1点			
	作業日誌	病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1点			
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加する。	1点			
個別項目	すそ枯病	マルチ栽培する。	1点			
	灰色かび病	マルチ栽培する。冬どり栽培では、近紫外線除去フィルムで被覆する。	1点			
	斑点細菌病	トンネル被覆直前に銅剤による予防散布を行う。	1点			
	レタスビッグベイン病	抵抗性品種利用、薬剤等を体系的に組み合わせる。	1点			
	ハスモンヨトウ	共通項目の励行(特に、若齢幼虫を早期に発見し、効果的な薬剤を散布する。)	1点			
	オオタバコガ	共通項目の励行(特に、若齢幼虫を早期に発見し、効果的な薬剤を散布する。)	1点			
	ナモグリバエ	成虫による加害痕を早期に発見し、効果的な薬剤を散布する。	1点			
	アブラムシ類	共通項目の励行(特に、光反射テープを活用してアブラムシの飛来防止をおこなう。)	1点			
			合計 点数			
			対象 IPM計			
			評価結果			